

特別展

華やぎのうつわ — 京焼からオールドノリタケへ —

同時開催 特集展示
「住友財団助成による文化財修復成果 —文化財よ、永遠に2027」

2027年 9月18日(土)―12月5日(日) ※展示替えあり

住友家では、江戸時代より大坂の地で、オランダ商館長など海外の客人への接遇を行ってきました。明治前期にはフランスから見本となるようなテーブルウェアを購入し、日本での洋食器産業を支援しました。本展では、住友コレクションと愛媛県新居浜市広瀬歴史記念館のコレクションから、明治時代、京焼の製陶家たちが目指した華やかなやきもの、オールドノリタケ、大倉陶園などの洋食器を一堂に展示いたします。近代の京焼を中心に約80点の作品で、製陶界の新たな試みを紹介する予定です。

おもな作品 —
幹山伝七《色絵花鳥文花瓶》明治時代中期・19世紀 泉屋博古館東京
ロイヤルウースター《オリエンタル模様ティーセット》19世紀 泉屋博古館東京
初代伊東陶山《色絵花鳥文カップ&ソーサー、ケーキ皿》19世紀 泉屋博古館東京



幹山伝七《色絵花鳥文花瓶》



ロイヤルウースター《オリエンタル模様ティーセット》

information

泉屋博古館東京（せんおくはくこかんとうきょう）SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO

住 所 〒106-0032 東京都港区六本木1-5-1
時 間 11:00―18:00(入館は17:30まで)
※金曜日は19:00まで(入館は18:30まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)
展示替え期間中、年末年始
観覧料 一般 企画展 1,200円(1,000円)
特別展 1,500円(1,300円)
学生 企画展 600円(500円)
特別展 800円(700円)

*18歳以下の方は証明書ご呈示にて無料
*20名様以上は()内の団体料金
*障がい者手帳等ご呈示のかたはご本人および同伴者一名まで無料
*展覧会により料金変更になることがあります



T E L 050-5541-8600(ハローダイヤル)
U R L <https://sen-oku.or.jp/tokyo/>
S N S X: @SenOkuTokyo
Facebook: @SenOkuHakukoKanTokyo
Instagram/Twitter: @senokuhakukokanmuseum_tokyo

《お問い合わせ先》 泉屋博古館東京(広報担当 橋本旦子)
TEL: 03-3584-8136 FAX: 03-3584-8137 E-mail: pr-tokyo@sen-oku.or.jp

PRESS RELEASE

泉屋博古館東京（東京・六本木） 2027年展覧会スケジュール

いつも大変お世話になり感謝申し上げます。

2027年は本プレスリリースに掲載の展覧会を開催いたします。

何卒宜しく願いいたします。

Schedule 2027

TOKYO

1 January
2 February
3 March
4 April
5 May
6 June
7 July
8 August
9 September
10 October
11 November
12 December

住友洋画
Collection Digi

そは、誰が袖

生誕二五〇年 木島櫻谷

華やぎのうつわ

泉屋博古館東京
SEN-OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM TOKYO

住友洋画Collection Dig! —このよの花とであう、よろこびの絵画。(仮)

2027年 1月30日(土) — 3月22日(月・休)

住友家15代当主・春翠が蒐集した印象派や同時代のヨーロッパ19世紀のアカデミズム絵画や日本近代洋画から、その子息二人がそれぞれ蒐集した近代洋画まで、住友が継続してきた芸術支援と3人の審美眼を深掘りして紹介します。

おもな作品

クロード・モネ《モンソー公園》1876年 泉屋博古館東京
重要文化財 鹿子木孟郎《ノルマンディーの浜》明治40年(1907)
泉屋博古館東京
岸田劉生《二人麗子図(童女飾髪図)》大正11年(1922)
泉屋博古館東京

巡回

泉屋博古館(京都東山・鹿ヶ谷)
2027年5月29日(土)～7月19日(月・祝)



クロード・モネ《モンソー公園》



重要文化財 鹿子木孟郎《ノルマンディーの浜》

そは、誰が袖 TAGASODE - Whose Sleeves? -

2027年 4月10日(土) — 5月23日(日) ※展示替えあり

「誰が袖図屏風」を出発点に、能装束やきものなどの染織品、また近世風俗画や近代の美人画などの絵画作品を含めて、きものと人との関わりに着目した展覧会。きものが単に衣服としてだけでなく、それを身に着ける人物を彷彿させたり、人から人へと伝えられたり、あるいは身に着ける人物の身分などを示したりといった機能のほか、特に人物画において、きものの描写に重点の置かれた作品を展示し、その表現へのこだわりや込められた意図とともに紹介します。



《誰ヶ袖図屏風》

おもな作品

《誰ヶ袖図屏風》江戸時代・17世紀 泉屋博古館
川村清雄《形見の直垂》明治32～44年(1899～1911) 東京国立博物館
《金地枝垂桜模様唐織》江戸時代・19世紀 泉屋博古館東京

生誕150年 木島櫻谷

「動物画の名手」過去最大規模の回顧展を東京・京都の2会場で開催!

2027年 6月5日(土) — 8月1日(日) ※展示替えあり



木島櫻谷《寒月》(部分)



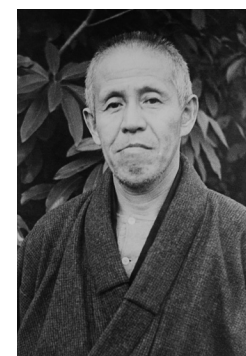
木島櫻谷《寒月》

本展は、近年再評価が進む木島櫻谷の画業を過去最大規模で紹介する回顧展です。

櫻谷は明治40年(1907)の第1回文部省美術展覧会(文展)で首席となって以降、6年連続で上位入賞するなど、京都画壇を代表する存在として広くその名を轟かせました。しかし、「文展の寵児」と称された生前の華々しい活躍とは対照的に、没後は長らく顧みられる機会に恵まれず、次第にその名も忘れられていきました。そうしたなか、2010年代に泉屋博古館で開催された複数の展覧会などを通して、動物画を中心に櫻谷に再び

注目が集まり、再評価が急速に進みました。発表当時、夏目漱石が酷評した《寒月》(京都市美術館)も、「動物画の名手・櫻谷」を代表する作品として、今では多くのファンから愛されています。

生誕150年を記念して開催する本展は、こうした近年の動向をふまえながら、《寒月》をはじめとする優品を一堂に会するとともに、初出展作品や新出資料なども加えて、櫻谷の画業を見渡すものです。画の道を真つすぐに生きた櫻谷と私たちの新しい物語が、本展から始まることに期待しています。



木島櫻谷 略歴

京都三条室町の商家に生まれ、京都画壇の重鎮であった今尾景年に師事し、若くして頭角を現す。明治40(1907)年の第1回文展出品作《しぐれ》で最高賞を受賞し、以後6年連続で上位入賞を果たすなど、「文展の寵児」として活躍した。大正元年(1912)から京都市立美術工芸学校で教鞭を執り、また第7回文展からは審査員を務めたが、晩年は画壇から一定の距離を置き、詩書画三昧の文人的生活を送った。徹底した写生を基礎に、卓越した筆技と叙情性、気品を兼ね備えた画風を築き、近年再評価の気運が高まっている。

おもな作品

木島櫻谷《寒月》大正元年(1912) 京都市美術館
木島櫻谷《月下遊狸》大正7年(1918)頃
泉屋博古館東京

巡回

京都市京セラ美術館
2027年10月2日(土)～12月12日(日)

開館25年記念企画展 住友洋画Collection Dig!

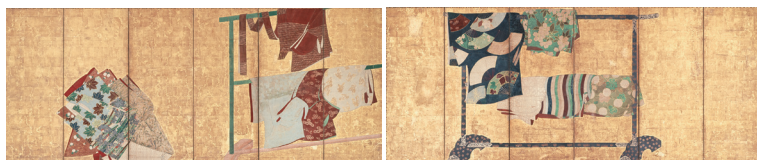


重要文化財
鹿子木孟郎《ノルマンディーの浜》
明治40年(1907)
泉屋博古館東京



クロード・モネ
《モンソー公園》
1876年
泉屋博古館東京

開館25年記念特別展 そは、誰が袖 TAGASODE -Whose Sleeves?-



《誰ヶ袖図屏風》江戸時代・17世紀
泉屋博古館



《金地枝垂桜蝶模様唐織》
江戸時代・19世紀
泉屋博古館東京

特別展 生誕150年 木島櫻谷



木島櫻谷《寒月》大正元年(1912)
京都市美術館



木島櫻谷《月下遊狸》
大正7年(1918)頃
泉屋博古館東京

特別展 華やぎのうつわ — 京焼からオールドノリタケへ —



ロイヤルウースター
《オリエンタル模様ティーセット》
19世紀
泉屋博古館東京



幹山伝七
《色絵花鳥文花瓶》
明治時代中期・19世紀
泉屋博古館東京